

行仙宿の点検整備

◇実施日 3月3日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、湯川一郎、梶野照雄 3名

3月2日に沖崎さんから「3日に行仙宿へ行くで」と電話があり、急遽十津川からR425経由で行くことになった。R425は通行止め解除前に落石などを掃除したらしく、きれいな状態だった。それでも4か所で小さな石が転がっている所があり、車を降りて道端に除けた。また、水たまりは氷結していて、その都度スピードを落とす必要がある。十津川村役場から50分で登山口に着く。



白谷林道入り口



行仙宿に着く



時計の電池交換

沖崎さんらは到着直後らしく、荷物を降ろして出発準備をしていた。

ツルハシやトンガなどの道具が6〜7本、土留の板が15枚ほど等をモノレールに積んで登りだす。湯川君は歩いて登って行った。

終点に着き荷物を降ろす。持ってきたハンマーと鑿で終点すぐ上の岩を割ってみる。クローラーダンプを使うために補給路の拡幅が必須になるためだ。岩の目が良く判らず苦労したが、5分ほど叩き続けるとヒビが入り、小さくではあるが割れ始めた。湯川君も加わり30分ほど作業を続け、かなりの部分を削ることができた。

一段落したところで行仙宿に向かった。お堂や管理棟を開けて点検、特に変わった所は無かった。電池切れで止まっていた時計の電池を交換する。一つの電池で19年間動き続けていたので、次回は交換に來れないだろう。早めの昼食を済ませてモノレール終点に向かう。上の砦付近で山側の土を削って道幅を広げてみた。木の根が多いものの、トンガで簡単に土は削れ、岩の無い部分は比較的楽に拡幅ができそうだ。



本日の参加者



岩を削る



白谷トンネルのツララ

終点傍の岩削りに再び挑戦、40分ほど続けて20cmほどを削り取った。木の根の切断が必要などところも多く、まだまだ時間はかかりそうだ。しかし、割れやすい岩もあることが判り、少し安心した気分でもある。

午後1時半、モノレールで下山。2時前に登山口で解散して帰宅した。白谷トンネルはまだツララが多く、落ちてこないかヒヤヒヤしながら通過した。

(記：梶野)

行動タイム

09：15 補給路登山口→10：45 行仙宿 12：10→12：25 モノレール
終点 13：30→13：50 補給路登山口